

都市部公共自治体のジュニアリーダーと 一般同世代少年少女における友人関係意識の比較

○橋本 和秀(余暇問題研究所) 山崎 律子(余暇問題研究所)

キーワード：ジュニアリーダー、友人関係、友人関係意識、青少年問題

1. はじめに

本研究は、青少年非行問題を効果的に防止するにはレクリエーションの視点からの具体的な方策が極めて重要であるとの認識のもとで3年前より行なっている継続研究の一環である。

青少年の問題行動のその多くは、自由時間中に起きている。増加した自由時間を「どのように過ごすか」がよく判らないまま、単に欲望のみを追求し「安易な過ごし方」へと向かう、即ち余暇に対する「知識・技能・態度」の欠如が青少年を非行等問題行動へ向かう傾向があるという問題意識を抱く。このような問題に対し、最近になって青少年が多様な人間関係を経験できる環境を整備するとした「心の教育」(文部省青少年問題審議会答申)が重要であると指摘されている。「人間関係構築能力の不足」が青少年のライフスタイルに不安を招くのであるならば、そこには人とのつながりが何らかのかたちで関与しているとされる。したがって人間関係の充実が青少年の健全な方向へ向かうのに大きく影響するであろうということに着目した。即ち「人間関係が豊かなほど青少年は健全である」ということである。

2. 仮説

「地域活動などに積極的に参加しているジュニアリーダーは一般同世代の少年少女に比べ友人関係をより重要視している」

3. 研究の目的

①友人とのつきあい方の意識の傾向②親友への期待の度合い等の側面より比較・考察をする。

4. 研究の方法

・調査対象：都内公共自治体主催のジュニアリーダーセミナー参加者男女 48名

私立中・高等学校生徒男女 117名 有効回答数 160 有効回答率 97%

・調査期日：1998年7月 ・調査方法：質問紙による集合回答法

なお分析については、量的分析と並行して質的内容を主体とした実情把握及び検証を行った。

5. 結果および考察

○友人とのつきあい方の意識の傾向

・「一人の方が落ち着く」とする関係回避の傾向については、否定をした者において有意差が認められた。とくにジュニアリーダーにおいて割合が高いことは、友人といる方が一人である時よりも落ち着くとする傾向があることが伺えた。

・「浅く広くより一人との深いつきあいを大事にする」とする社交的側面では有意差は認められなかったが、一般少年少女の40%以上が深いつきあいをしたいのに対し、ジュニアリーダーでは肯定否定ともに同比率であった。また両者とも30~40%近くが「わからない」としており特定人物との関係も大事だが多方面からも友人を得たいとする気持ちのあらわれとみてとれる。

・他の項目においては、ジュニアリーダー、一般少年少女ともに同様の傾向を示した。

○親友への期待

1) つくりたいと思う理由

・「悩みを打ちあけられる」では両者の間に有意差が見られた。ジュニアリーダーは一般少年少女よりも親友に対してより強く期待をしていることが伺えた。

- ・「相手のために時間を割ける」では他の項目に比べ両者ともに低くなっている。
- ・「悩みを打ちあけられる」項目以外では両者の間に差は認められず、共に親友に対して同じような捉え方をしていることが伺えた。

表-1 友人とのつきあい方の意識 (%)

| | | はい | いいえ | どちらでもない |
|-------------------------|----------|------|-------|---------|
| 友人といるときより ひとりの方が落ち着く | ジュニアリーダー | 8.3 | 60.4* | 32.1 |
| | 一般少女 | 20.5 | 42.9* | 36.6 |
| 浅く広くより1人との 深いつきあいが大事 | ジュニアリーダー | 29.2 | 29.2 | 41.7 |
| | 一般少女 | 44.6 | 23.2 | 32.1 |
| あることがらについて 熱中して友人と話す | ジュニアリーダー | 77.1 | 6.3 | 16.7 |
| | 一般少女 | 74.1 | 8.9 | 23.2 |
| 友人と一緒にいても 別々の事をしている | ジュニアリーダー | 4.2 | 66.7 | 29.2 |
| | 一般少女 | 7.1 | 61.6 | 31.3 |
| 友人になったらその 関係は長く続く方だ | ジュニアリーダー | 75.0 | 2.1 | 22.9 |
| | 一般少女 | 73.2 | 3.6 | 24.1 |

t 検定による有意差 * 5%の有意差

表-2 親友への期待・つくりたいと思う理由 (%)

| | ジュニアリーダー | 一般少女 |
|-----------------|----------|--------|
| お互いに悩みを打ちあけられる | 49.8** | 20.3** |
| 本気でケンカができる | 12.4 | 9.6 |
| 気が合うこと | 16.3 | 19.5 |
| 一緒にいて疲れない | 14.9 | 14.8 |
| 相手のために時間が割ける | 4.5 | 7.7 |
| 相手の意見や行動を認めてあげる | 12.9 | 11.8 |
| 本当の自分を見せることができる | 19.3 | 15.4 |
| その他 | 0.0 | 0.8 |

t 検定による有意差 ** 1%の有意差

2) つくりたいと思わない・わからない

- ・一般少女において僅かではあるが見られる。理由は「めんどくさい」「干渉されたくない」「疲れる」「自分を見せたくない」「いない方が楽」であり、他との接触を自ら「拒否」もしくは「煩わしさ」を感じていると考えられる。ジュニアリーダーでは見られなかった。
- ・「わからない」では両者ともに10%程度みられた。

6. まとめと課題

本研究では、ジュニアリーダーと一般少女の友人関係意識の比較をした。ジュニアリーダーは①友人とのつきあいの傾向では複数の友人と一緒にいることを好むこと、②親友はお互いに悩みを打ちあけられる関係を望んでいることが一般少女よりも強くあること、がわかった。友人に「悩みを打ちあげたい」とすることが関係をつくるにあたり重要な意味を持っていると考えられる。ただし全体的にはジュニアリーダーも一般少女も他の項目を見る限りではお互いの間にあまり差が見られなかった。友人関係はどちらも同じような捉え方をしていることも結果より伺えた。